

「プロトンとケイ素の恵み」の体内に産生するヒドロキシルラジカルの消去検査

「プロトンとケイ素の恵み」は H_3O^+ のヒドロニウムイオンです。

しかも、溶存量は300ppmです。

このイオンは非常に安定していて、常温はもちろん加熱しても抜けることはありません。

しかし体内に入ると、ヒドロキシルラジカル($\cdot\text{OH}$)が H_3O^+ から H^+ を奪い、 H_2O つまり水に変化して消えます。

H_3O^+ も H^+ が奪われて同じく H_2O になり、どちらもただの水になってヒドロキシルラジカルの暴走は収まることとなります。

ただ、これは理論上のことで、実際に体の中で同じことが起きているのかが重要となります。

説得力を持たせるには客観的なエビデンスが必要と考えていたところ、ある方からヒドロキシルラジカルが体内にどれだけ出来ているかを測る方法を教えて頂きました。

それが「8-OHdG」というバイオマーカーです。

この量を調べれば、体内でどのくらいのヒドロキシルラジカルが出来ているかが分かります。

そこで、20人を被験者として二重盲検法による検査測定を行いました。

即ち、乱数メーカーでミネラルウォーターグループ10人とプロトンとケイ素の恵みグループ10人に分け、何を飲んだか分からないようにして、それぞれ30mlを飲んで貰うことにしました。

飲む前に検査測定し、飲んだ翌朝に2度目の検査測定し、その差を測定しました。

そして集計したのが以下のグラフです。

それぞれ、最大値と最小値を除外した8人の平均消去率は、ミネラルウォーターグループが約24%増加、プロトンとケイ素の恵みグループが約32%減少と、明確な有意差が示されました。

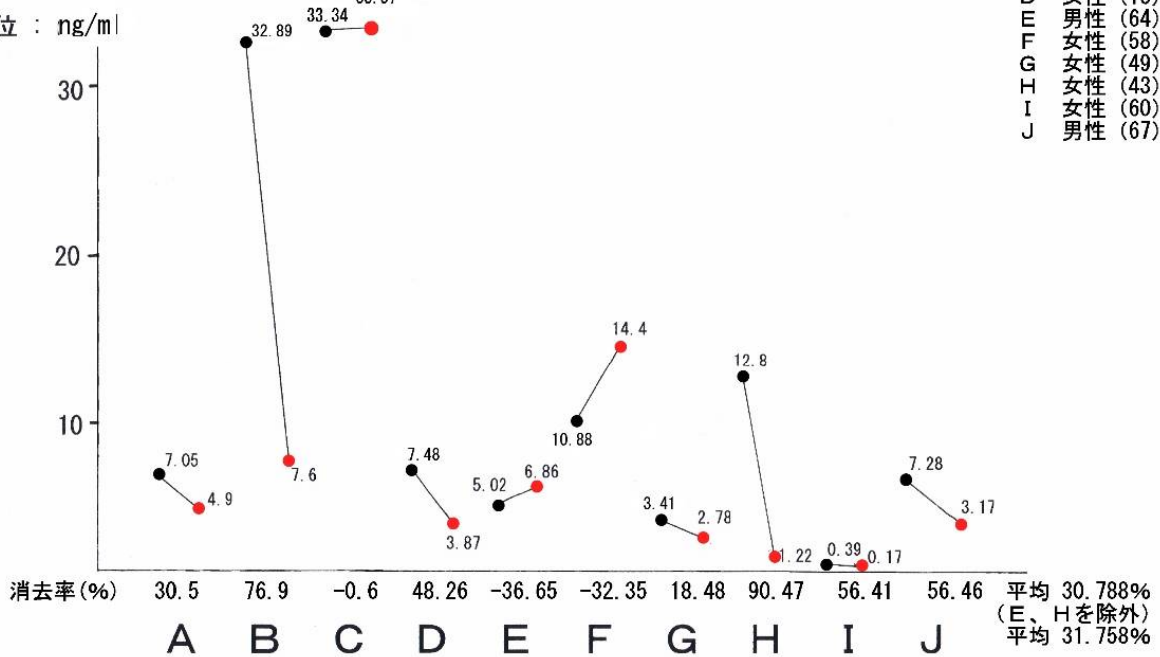
しかもわずか1日での差です。

これで、プロトンとケイ素の恵みが確実に体内のヒドロキシルラジカルを消去していることが明らかになりました。

エビデンスとして十分に耐え得るデータと言えます。

8-OHdG
単位 : ng/ml

- A 女性 (60)
- B 女性 (52)
- C 男性 (46)
- D 女性 (18)
- E 男性 (64)
- F 女性 (58)
- G 女性 (49)
- H 女性 (43)
- I 女性 (60)
- J 男性 (67)

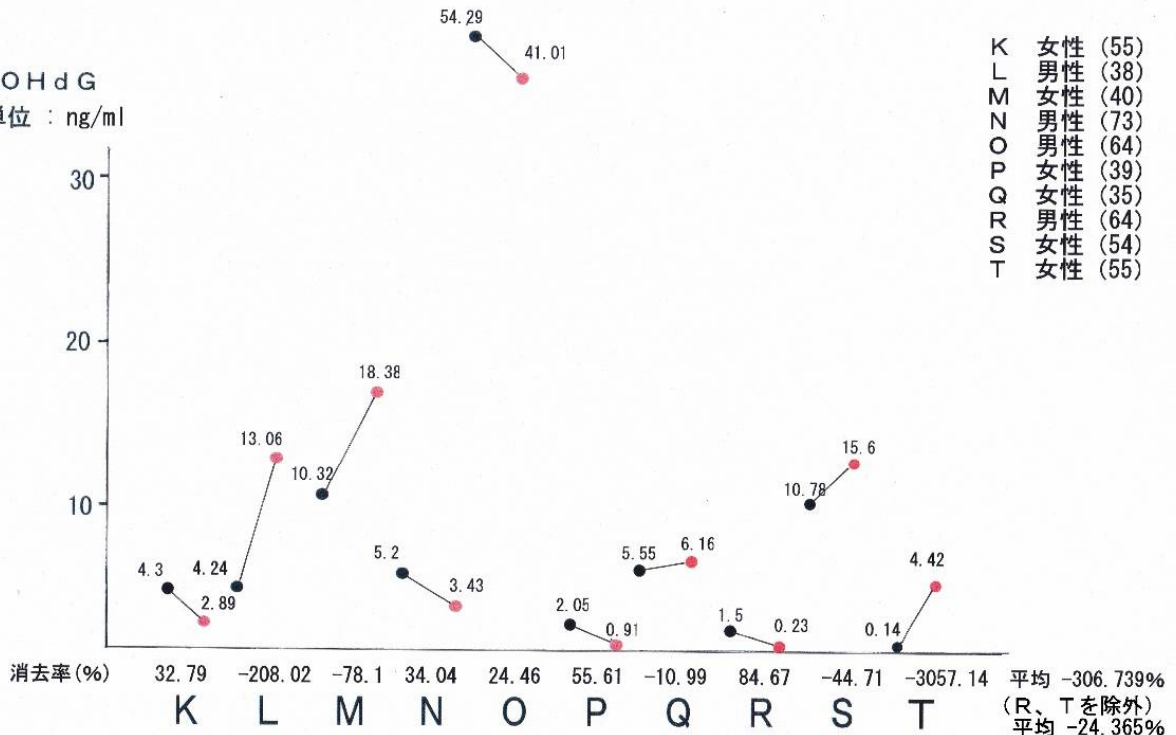


被験者10人(A~J)
「フロンとケイ素の恵み」30ml
内容物を告知せず、
飲用前と飲用後翌日を測定

- 飲用前
- 飲用後

8-OHdG
単位 : ng/ml

- K 女性 (55)
- L 男性 (38)
- M 女性 (40)
- N 男性 (73)
- O 男性 (64)
- P 女性 (39)
- Q 女性 (35)
- R 男性 (64)
- S 女性 (54)
- T 女性 (55)



被験者10人(K~T)
「ミネラルウォーター」30ml
内容物を告知せず、
飲用前と飲用後翌日を測定

- 飲用前
- 飲用後